

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099400048		
法人名	社会福祉法人 豊徳会		
事業所名	グループホームあかいけ		
所在地	福岡県田川郡福智町赤池409-13		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果確定日	平成30年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成筑豊鉄道赤池駅に程近い住宅地に、平成28年4月に開設したグループホームあかいけも間もなく2年を迎えようとしています。「やさしい声かけ笑顔で傾聴、地域の中でいきいきと暮らす、思いやりの心で共に生きる」職員全員で作上げた理念を基に、利用者様が安心して過ごしていただけるグループホームを目指して日々支援をさせていただいております。利用者様がその方らしく、地域の一員として生き生きと生活できるよう、地域活動への参加やボランティアの方々の協力等による環境づくりをおこなっています。ご家族や知人の皆様も、いつでも来所いただき、利用者様と談話を楽しんだり、法人広報紙やホームページ等で行事や近況等を確認いただけるよう取り組んでいます。利用者様に、ここで生活して良かったと思っただけの安らぎのあるグループホームを目指して今後も職員一同精進していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に入るとロボットが出迎えるグループホームあかいけは、毎朝理念の唱和を継続し、日々の生活のひとつま中の思いや意向の把握に努め、入居者の思いにどう寄り添うか常に話し合っている。たまにはビールをとの思いを叶えたり、絵画教室は隠れた能力を発揮し承認される場となっている。転倒を心配する家族から車椅子に固定してほしいの希望があったが、手引きで歩行練習を繰り返し、車椅子を使用せず過ごしている入居者もある。自己研鑽の年間目標を職員各自が掲げ、スキルアップに励む体制が構築され、日頃の言葉かけを毎回自己評価し、丁寧な言葉かけとは思いを新たにしている。地域の清掃活動、餅つきや盆踊りに参加したり、ボランティアによる多様な行事を楽しみながら、理念をさらに具現化するために、今後は地域の一員となるホームを目指して保育園児との交流や認知症カフェの開催など模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **ユニット2/グループホームあかいけ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一人として、その方らしくいきいきと生活出来るよう職員一同ケアを行っている。理念は職員で話し合いのもと創り、朝礼時に唱和して業務に従事している。	毎朝の理念の唱和を継続し、理念の具現化に努めている。何度も同じことを尋ねる入居者の気持ちを思いやり、絵画教室では隠れた能力を発揮し承認される場の提供を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の清掃活動や盆踊りに参加して、地域の一人として暮らし続けられるよう交流を深めている。	地域の清掃活動、餅つきや盆踊りの参加を継続している。入居者家族やボランティアなどによる絵画教室や読み聞かせ、紙芝居、ピアノ演奏など行事が、入居者たちを楽しませている。保育園児との交流を目指して、管理者が近くの保育所に声をかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方々や社会福祉協議会等の協力を得ながらカフェの開催を目指し、認知症の人への理解や相談等の対応ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の状況や活動等の報告を行い、また意見をいただき、サービス向上に活かしている。	前区長や民生委員、寺の住職、各ユニットの家族代表などの参加で2ヶ月1回開催され、議事録が整備されている。活動や感染対策の報告、認知症カフェについての活発な質問等もあり、今後は避難訓練を会議に組み合わせることも検討中である。	全家族に会議の開催を案内したり、議事録の公表などを行い、さらなる運営推進会議の活性化に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所の状況を伝えるとともにサービスや実情についても積極的に伝え、協力いただき連携を深めている。	町社会福祉協議会で認知症カフェの開催について話を聞いたり、町主催の介護教室に参加するなど、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員間で確認している。転倒等による事故の際には、その対策を職員や家族、行政等と協議しながら安全な生活を送ることができるよう取り組んでいる。	外部や母体法人の研修などに参加し、身体拘束をしないケアに努めている。車いすから突然立ち上がるため、転倒の危険があるので車椅子で固定してほしいと家族から希望された入居者もあるが、手引き歩行の訓練で車椅子を使用せず過ごすまでになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、月1回職員会議にて確認をするとともに、職員には内外の研修に参加する機会を設けている。虐待防止チェックリストを活用し、虐待防止への意識向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、パンフレットを配置したり、法人主催の研修会に参加するなどして勉強の機会を持ち、活用できるようにしている。	多様な家族状況はあるが、現在のところ成年後見制度や日常生活自立支援事業の制度活用には至っていない。パンフレットを整備し、相談があれば相談窓口への案内ができるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等でご利用状況に変更等ある場合は、十分な説明を行い、ご家族等に不安のないよう理解いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族等による意見や要望を伝えられるような雰囲気や環境作りに努めるとともに、出された意見等はユニット会議等で速やかに検討している。	毎週訪れる家族もあり、日頃の暮らしぶりを報告し、意見を伺う機会としている。入居者の体調を気遣い、サプリメントの微調整を頻繁にされる家族もあり、家族の思いに寄り添いながら対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や年2回の個人面談等で業務に関する意見の集約等を行い、サービス向上に反映させている。	月1回の職員会議で研修報告や情報を共有をしている。物品購入や気づき、アイデアなどは申し送り時や管理者に直に提案し、職員会議で話し合っている。共用空間の加湿器の設置、お正月のみかんやおやつの配慮などが実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で人事考課制度を採用しており、職員の目標や実績に応じた評価をおこなうなど、職場環境の整備等に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、性別や年齢等に関係なく対象を広く求めるとともに、希望の勤務形態等を協議しその能力が発揮できるよう努めている。	法人内の異動や新規採用で、20歳代から60歳代の職員が就労している。自己研鑽の年間目標を職員が各自で立ててスキルアップを図り、給与に反映される体制が構築されている。休憩室の設置や休憩時間の確保、年2回の慰労会の開催、希望休なども配慮され、生き生きと働ける職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の会議において、人権研修や啓発活動に取り組んでいる。法人主催の人権研修にも職員が参加できるよう配慮している。	母体法人主催の権利擁護や意思決定支援の研修や県主催の人権研修に職員を参加し、伝達講習を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルの見極め、個々に応じた法人内外の研修受講ができる機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の協議会に参加し、ネットワーク作りや相互訪問等の活動をおこない、交流を深めてサービスの向上に反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居いただく前から、充分にアセスメントをおこない、ご本人の状況把握に努めている。不安や困りごと等要望に耳を傾けながら関係作りを行う。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して生活いただけるよう困りごとや不安等解消できるよう関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要な支援の見極めを行い、他のサービス利用についても協議し、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にとってはご自分の家なので洗濯物たたみや掃除機がけ等、できることを行っていたりしている。また、その日に着る衣服は自分で選べる方はご自分で選んで着ていただく。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にするため、細やかな連携を図り、関係の強化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の方々が訪ねてきていただけるよう広く開放している。また地域の交流活動に月1回出かけていく方もおり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	入居前から参加していたいきいき体操に知人の送迎で月1回参加したり、家族が散髪をしに来所したり、いきつけの美容室に家族の希望でタクシーや職員の送迎で通うなど、馴染みの人や場との関係が継続している。昔からの餅つきなどの行事や食事も、今までの生活に根ざした提供を心がけている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が会話や活動が楽しめるよう環境を整えたり、雰囲気作りに取り組んでいる。声かけや洗濯物たたみ等お互いが思いやりを持って支え合えるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了されたご利用者様に対しては、サービス機関への情報提供やご家族との関わりの中で、相談や支援等できるような連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との対話やご家族との連携により、意向を汲み取ることができるよう努めている。	職員の担当制を継続し、日々の生活のひとつまの思いや意向の把握に努めている。たまにはビールをとの思いを叶えたり、絵画教室では称賛される喜びで隠れた能力を発揮できるよう支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの暮らし方などをご本人やご家族等に確認しながら希望に沿った生活ができるよう努めている。喫煙希望者に対しては、喫煙ルームの設置により希望に沿った環境を整えている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、利用者様の状況を把握するため、些細なことでも情報の共有を行い、サービス向上に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の立場に立った介護計画を作成できるよう、担当制をとっており、ご本人、ご家族等と話し合いを行い、その意向を汲み取り計画に反映させている。	入居者や家族の意向に沿った介護計画を作成しているが、ルーチン化した日々の生活を記載するのではなく、いつもと違う気づきを記載するように指導している。気づきをモニタリングに活かし、介護計画に関連付けることで、より現状に即した介護計画作成を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務記録を日々の記録として残すと共に、個別記録を記入し、日々の様子や状況を把握し職員間で情報共有し実践に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況、ニーズに対応できるような様々なサービスの提供を検討できるよう取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安全で豊かな暮らしを営むことができるよう、地域資源の情報収集を行っている。地域活動を通じて地域の一員になれるよう関係強化に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族等の希望を大切に、かかりつけ医への受診が行えるよう関係構築に努めている。かかりつけ医や協力医療機関等による往診も行っていただき、利用者様に安心して適切な医療を受けていただいている。	基本的に入居前のかかりつけ医の継続が支援され、遠方の場合も距離に応じた交通費の負担を家族に了解してもらい、受診に同行している。必要に応じて看護師がかかりつけ医への受診に同行したり、急変時の対応は家族に随時報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置して、利用者様の状況把握を行っている。必要に応じて適切な受診が受けられる様医療機関との連携にも努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常日頃から医療機関との連携を深め、入院退院時にも病院関係者との情報交換を密に行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針を事業所内や関係医療機関と協議、検討を行っていく体制作りを進めていくとともに、重度化に伴う関係機関との連携も進めていく。看取り研修にも随時職員が参加し、スキルアップに努めている。	終末期に関する県や市町村の研修に職員が参加し、体制作りを検討中である。先ごろ、容態が変化し医療機関で亡くなられた入居者は、家族の希望で病院に搬送している。入居者や家族の意向を聞きながら協力医療機関との連携を図り、職員のスキルアップに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応が行えるよう、急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員への周知を図っている。AEDを設置し、使用法の内部研修も実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の整備を行い、災害発生時の利用者様の安全確保に努めている。年2回避難訓練を計画。(今年度は10月に大規模災害時の避難訓練を実施)	年2回の避難訓練を実施し、前回の反省を基に避難経路が舗装され、避難時間が短縮されている。熊本の災害地で研修した職員が作成したラクラク連絡網で、連絡時間の短縮や安否確認ができることとなった。備蓄については選定用のカタログが集められ、検討が進められている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩として利用者様を敬い、言葉遣いや支援にも常に気配りを行っている。居室に入室の際や整容の際にも、声かけをするなど丁寧な対応をしている。	職員は日頃の言葉かけが適切であったかを毎回自己評価し、そのたびに基本の丁寧な言葉かけとは思いを新たにしている。自分の席に他の人が座っていると参加しない、気の合わない人の隣の席はいやなど一人ひとりの思いを理解しながら、共同生活に少しずつ馴染んでいただいている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重できるよう傾聴の姿勢を理念に掲げ、職員全員が共有し支援に繋げている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援させていただいている。入浴の順番等、利用者様で順番を決めて実施している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の中には自身でお化粧をしたり、馴染みの美容室に出掛けて散髪をする方もおられる。月1回出張カットのお願いをして美容師に来てもらい、カットやカラーも対応いただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士による季節感あふれる献立作成をおこなっている。また毎食ごとに献立表を掲示し、ご本人ごとの茶碗やお箸を準備している。	高齢者に合う量に調整し、品数を1品増やした食事はやさしい味つけで、入居者に好評で其々のペースで食事している。年始には正月気分を味わってもらうため、安全に配慮しながら雑煮やおせち、屠蘇が提供されるなど、食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養摂取状況や水分量の記録、週1回の体重測定で身体状況の把握に努めている。身体状況や嚥下の状態に合わせて粥食や刻み食、ブレンダー食、とろみ食の提供で身体状況や嚥下の状態に合わせて支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態の確認や必要に応じた口腔ケアをしている。希望により訪問歯科診療の受け入れも検討している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄習慣や特性を確認し、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間、定期的にトイレ誘導の声かけなど排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意が頻回で介助が大変と捉えるのではなく、本人は不安で大変だろうと手引きで何度も介助を繰り返している。布パンツに尿取りパットを使用しながら布パンツには戻れないが、トイレ誘導とさりげないパットの交換で生活は落ち着いている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の記録や排泄の確認を行い、利用者様個々に応じた便秘の予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に応じた入浴が楽しめるよう、個々に応じた入浴支援をしている。基本的に毎日入浴を行っていただいております、利用者様の状況に応じて普通浴槽と機械浴槽を使って入浴いただいております。	毎日入浴できるが熱っぽいからなど理由をつけて入浴を拒否する入居者もあるが、3日毎の入浴を支援している。入れば気持ちいいと翌日は入浴順番でもめることがあり、共用空間には入浴順番の張り紙が張られていた。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの状況や生活習慣に応じて、休息したり安心して眠れるよう環境を整えている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬については、看護師が医療機関と連携し、確認後マニュアルを作成し職員に伝達する等情報共有し、安全に服薬支援をおこなっている。各ユニットに薬情ファイルがある。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ箱作り、花壇の手入れ、掃除機がけ、洗濯物干し等、それぞれができる事をお願いし、気分転換に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、地域の散策をしたり、日光浴を楽しんだりしている。季節ごとの外出や月1回の買い物外出など、気分転換やメリハリのある生活が送れるよう支援している。	昔行ったことのある所の花見や神社への参拝を計画して出かけている。買い物に近くのスーパーや薬局に出かけて、好きなお菓子やビールなど購入を楽しんでもらっている。お正月は外出されて家族と過ごされた入居者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金をお持ちの方は、職員へ買い物や外出の際、ご自分で希望の物を購入したりする。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の依頼がある方には、いつでも電話をかけることができることを伝え支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂は吹き抜けで明るい造りになっている。空気清浄機、加湿器等の設置で湿度や環境への配慮も行い、BGMを流したり、季節の花をテーブルに置くなど、居心地よく過ごせるよう努めている。	玄関に入るとロボットが出迎え、入居者も時折話しかけている。各テーブルには季節の花が生けられ木の香りが漂う吹き抜けの天井は高く、空気清浄機や加湿器が設置され、明るく清潔な空間となっている。こだわりのある入居者の思いに配慮し、居間の席を決めて常時確保している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し、仲の良い利用者同士で会話を楽しんだりテレビを見てくつろげる場所として活用している。また新聞をとっており、毎日新聞を広げて見ている利用者様も少なくない。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が利用者様にとって居心地良く過ごせる場となるよう環境を整えている。	全居室に加湿器が設置されているが、中には家族が持参した加湿器も使用している。読み聞かせのボランティアから送られた折り紙細工が飾られ、持込みの小引き出しや椅子、運動器具が置かれた居室もある。日用品や衣類はクローゼットに整理され、居心地よい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に生活していただけるよう、物の配置に工夫した環境作りを行っている。		